

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクト I (教員自由企画型) 2016年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名	
	コミュニティ福祉学部・教授	藤井 敦史	印
研究課題名	キャリア支援としての「自己分析」と「自己表現」訓練における多角的アプローチの検討		
研究期間	2016年度		
研究経費	100千円		

【研究の概要】

1. 目的

学生が自らのキャリアを見通すうえで、「自己分析」を行うことは、自身のキャリアを考える大事な一歩である。また、その結果として見出された自分らしさを他者に分かりやすく「自己表現」していくことは、キャリア形成のなかでも大きな鍵となる。しかし、それらは就職活動の一環として学生の個人的な側面に大きく委ねられており、またその成否について大学内の教育活動の中で問われることは、ほぼないのが現状である。本プロジェクトでは、本学部生に合った独自のキャリア支援プログラムのひとつとして、シナリオや演劇という多角的なアプローチを検討することを目的とした。

2. 方法・内容

学生達が自らのキャリア形成を自分ごととして捉え、当事者意識を持つための第一歩として、どの様に「自己分析」に取り組むと良いのかを検討するため、ワークショップ授業を行った。実施は2016年11月、本学部の2年生13名を対象に90分、4種類を試行した。また、現状のキャリアに対する意識や現在の価値観を自覚させ、それらの「自己表現」の機会を創出するために、シナリオを用いた授業を行った。こちらは2017年1月、本学部の1年生約140名を対象に、30分間で行った。

3. 結果概要

ワークショップの参加学生からは、「普段は自分の個性について話す機会はないが、表現して自分の思いが分かった」、「自分のことは知らないが多すぎる」、「自己分析は思った以上に難しいが、皆でやると楽しく、新しい発見につながる」との感想が語られた。ワークショップには、自己分析を個人作業として取り組む方法以上の効果や、自己表現の心理的ハードルを下げる効果があることも確認された。加えて、本学部生は、第一希望で合格した比率が相対的に少なく、学部に対するアイデンティティやキャリア形成についての意識も、ばらつきが見られる傾向にある。ゆえに、ワークショップのような通常とは異なるアプローチによって、物事をより能動的に、「自分ごと」として捉える力の涵養の重要性を強く感じるところである。またシナリオの方では、「セリフを書く作業により、自分の人生が浮き彫りになった気がする」、「シナリオを考えることで、自分の過去と今後を確認できると気付いた」、「自分の価値観を言語化することは難しかったが、シナリオを通して、価値観やこだわりが分かって驚いた」との反応が得られた。物事の過去や今後、価値観を明確にすることは、シナリオ本来が持つ機能のひとつである。そうしたシナリオをキャリア支援に応用する効果として、自己客観視や価値観の可視化、多角的な視点と発想の柔軟性の獲得などがあることが確認された。

4. 今後の課題・方向性

ワークショップもシナリオも、学生がリアルな「実感」として自分自身がどのような状態であるのかを具体的に理解し、表現するためのツールとして、大きな可能性があると考えられる。学生が自らのキャリア形成を、なるべく早い段階から自分ごととしてとらえ、当事者意識を持つためにも、本プロジェクトを通じて得ることのできた知見を今後も引き続き研究し、キャリア支援の有効な手段として確立したい。